

# 30P1-pm006

p21<sup>ras</sup> ファルネシルトランスフェラーゼ阻害物質 TAN-1813 の合成研究

○渡邊 一弘<sup>1</sup>, 千田 一慶<sup>1</sup>, 佐藤 静香<sup>1</sup>, 成田 紘一<sup>1</sup>, 加藤 正<sup>1</sup>(<sup>1</sup>東北薬大)

【目的】 タンパクファルネシルトランスフェラーゼ (PFTase) 阻害活性を有する TAN-1813 (**1**) の効率的な全合成ルートを開発する。

【実験・結果】 マロン酸ジメチル誘導体 **2** およびヨウ素体 **3** をカップリングした後、立体選択的な分子内 Diels-Alder 反応を鍵反応として環化付加体 **4** を合成した。次いで、架橋エーテル結合の開裂など数工程の官能基変換を行い、**1** のデカリン環のすべての不斉炭素を整えたアルデヒド体 **5** を合成した。現在、**5** に対して無水マレイン酸誘導体 **6** との Baylis-Hillman 反応 (**5** → **7**) により、**1** の上部構造であるマレイミド部の導入・構築を検討している。

